

いつだって好奇心 手を伸ばせばそこに本

子どもの読書活動

学校・園の取り組みを紹介します③

☎社会教育課 ☎・☎(582)1142 ☎(581)2733

河西幼稚園

「保護者とともに、お話の世界を楽しもう」

子どもたちは、絵本や紙芝居などの読み聞かせを通して、ドキドキワクワクしながらお話の世界に興味や心を広げていきます。また、お話の世界にどっぷりひたる中で、喜びや悲しみなど、さまざまな気持ちに触れ、それが人や物に対する思いやりの気持ちにつながっていくと考えています。



園では、一日一冊以上の絵本などの読み聞かせを行い、保護者の読み聞かせボランティア「すまいる」の皆さんも、子どもたちとお話の世界を楽しみながら、読み聞かせをしています。また、毎週1回絵本貸し出しを行い、家庭でも親子で触れ合いながら、読み聞かせの大切さや心の育ちを伝えています。これからも、保護者とともに、子どもたちの心豊かな成長を願いながら読み聞かせ活動を継続していきたいと思っています。

小津こども園

「絵本は心の栄養です」

各年齢に合った絵本の読み聞かせを行ったり、毎週1回3～5歳児に絵本貸し出しの日を設け、子どもが選んだ絵本を親子で一緒に読めるようにしています。また年長児は絵本の部屋で好きな絵本をじっくり読む



時間なども設けています。少し長いお話になると「続きはまた明日」と、手作りのしおりをはさんで、続きを読むのを楽しみにしている

子どももいます。

自分が主人公になってドキドキハラハラしたり、ことば遊びを繰り返し楽しんだり、たくさんのお話にふれて豊かなイメージでものごとを考える力が育まれているように感じます。これからもさまざまな絵本との出会いを大切に、豊かな心情の育ちにつなげていきたいと思っています。



佐川美術館
アートコラム②

芸術家のサイン(印)

公益財団法人佐川美術館

学芸統括：井上英明



古今東西、有名無名を問わず多くの芸術家が数多くの作品を生み出してきました。その作品たちを美術館、博物館、宗教施設など多くの場所で見られる機会があります。作品を見たときにその作家が誰なのか、私たちは作品の近くに掲げられているキャプション(作品名・作家名などの情報が記載されたパネル)を見て知ることができます。もちろんレオナルド・ダ・ヴィンチの《モナリザ》や、葛飾北斎の《富嶽三十六景》など、あまりにも有名で一目見れば分かるものもあります。

それらの作品を丹念に見てみると、制作者のサインが刻まれているのを見つけることができます。例えば、佐川美術館コレクションの平山郁夫であれば、作品の右下もしくは左下に「郁夫」、佐藤忠良であれば、フロンズの一部分に「Churyo」もしくは「忠良」、樂吉左衛門であれば茶碗の高台(底につけられた円環状の台部)付近に「樂」の印があります。このサイン(印)によって作家が誰であるかを知ることができ、また場合によっては制作時期を特定することができます。

作家によっては無印のものや多くのサインを使い分ける場合もありますが、たった数文字の中にもいろいろな情報が含まれているサインについて、これから注意深く見ていただくことで、作品鑑賞の面白さが増すのではないのでしょうか。